

市内遺跡 9

—平成 26 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

2015.9

茅野市教育委員会

序 文

茅野市は長野県南東部に位置する風光明媚な高原都市です。東に八ヶ岳連峰、西に赤石山脈から続く山脚、北に霧ヶ峰山塊を擁し、霧ヶ峰の南麓からは遠く富士山を望むことができます。

当市には特別史跡尖石遺跡、史跡上之段遺跡や駒形遺跡をはじめとする多くの縄文時代の遺跡があり、「縄文の里」として全国にその名を知られています。また、それらの縄文遺跡にかくれがちであった弥生時代から江戸時代の遺跡も、市街地周辺における近年の発掘調査によってその数を増しています。

当市では市内各所で行われる各種開発事業と遺跡の保護・調整を図るために、国庫補助事業による試掘調査ならびに本調査等を進めてきました。その中で平成26年度に実施した10件の調査成果が本報告書にまとめられています。

報告する発掘調査は、いずれも遺跡の一部を対象に行われた小規模なものです。このような調査を地道に繰り返し行うことで、遺跡の広がりやその性格が解き明かされていくものと期待されます。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力を賜りました地権者ならびに事業関係者の皆さま、調査に従事された作業員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

平成27年9月

茅野市教育委員会
教育長 牛山英彦

例 言

- 1 本書は長野県茅野市が平成 26 年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け作成した、平成 26 年度の各種開発事業に伴う市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 本書に掲載した遺跡は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までに調査した遺跡である。
- 3 整理作業ならびに報告書作成は、平成 27 年 5 月 1 日から平成 27 年 8 月 28 日に実施した。
- 4 各遺跡の所在地は本文中に記した。
- 5 本調査に係わる出土品、諸記録は茅野市尖石縄文考古館で収蔵・保管している。
- 6 発掘調査から報告書作成までに、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課、長野県考古学会、諏訪考古学研究会の諸氏からご指導、ご助言を頂いた。記して感謝する次第である。

凡 例

- 1 遺跡番号に枝番を付してあるものは、茅野市遺跡台帳の枝番であり、発掘届け受け付け順となっているが、本報告においては、実際の調査順としたため、順番が前後するものがある。
- 2 本書における挿図の縮尺は、挿図中に記している。
- 3 挿図における遺構の略号は以下のとおりである。
① 1 号住居址 → 1 住 ② 1 号竪穴状遺構 → 1 竪穴 ③ 1 号土坑 → 1 土 など
- 4 土層断面図のレベルで未記入のものは、現地表面のレベルを基に任意で設定している。

目 次

第 1 章 市内遺跡発掘調査等事業の概要	1
第 1 節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要	1
第 2 節 平成 26 年度事業の概要	1
第 3 節 調査の体制	1
第 2 章 試掘調査	3
第 3 章 本調査	13
抄録	

第1章 市内遺跡発掘調査等事業の概要

第1節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要

平成26年3月現在、茅野市における周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡とする）は348箇所である。遺跡内およびその隣接地で開発行為が計画された場合、事業者と市教育委員会との間で埋蔵文化財保護に関わる取り扱いを協議し、試掘調査（確認調査）の実施を基本に埋蔵文化財（遺構・遺物）の有無を確認することになっている。埋蔵文化財が確認された場合、工事の計画変更による遺跡の現状保存を事業者に求めているが、やむを得ず失われる場合には、事業者の協力を得て本調査による記録保存を実施している。

近年の当市における発掘調査等は、ほ場整備・土地区画整理・幹線道路新設事業などの公共性の高い大規模な開発に伴うものから、宅地造成・集合住宅建築・個人住宅建築工事などの民間・個人が事業者となる小規模な開発に伴うものへ移行している。今後も人口の増加と相まって、このような小規模開発に伴う調査は増加の一途を辿ることが予想される。これに対処するため、市教育委員会では埋蔵文化財の保護・保存に対する理解と協力を得るためのさまざまな事業を展開してきた。平成18年度は『遺跡位置図』を掲載した埋蔵文化財の取り扱いに関するリーフレットを市内全戸に配布し、保護・保存に関する啓蒙・普及活動を行った。平成19年度は周知の遺跡の範囲を全面的に見直し『遺跡位置図』を改訂した。平成20年度は遺跡の位置と内容の周知化をさらに進めるため、『遺跡位置図』ならびに『遺跡台地』を電子化し、茅野市ホームページ上での公開を開始した。また、こうした取り組みにあわせて、平成19・20年度には市内の不動産取引業者、土木および建設業者、建築設計業者と埋蔵文化財の取り扱いに関する勉強会を合同で開催し、遺跡の位置や遺跡内で工事を行う際の法的手続きなどを相互で確認した。この他、地域の歴史を直に感じていただく機会として、市民対象の発掘現場の現地説明会を開催している。

規模の大きな発掘調査としては、平成26年度には、国史跡駒形遺跡の確認調査を実施したほか、集合住宅の建築工事に伴い構井・阿弥陀堂遺跡の発掘調査を受託事業として実施した。

第2節 平成26年度事業の概要

平成26年度に受理した『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書（93条第1項）』ならびに『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書（94条第1項）』は49件である。

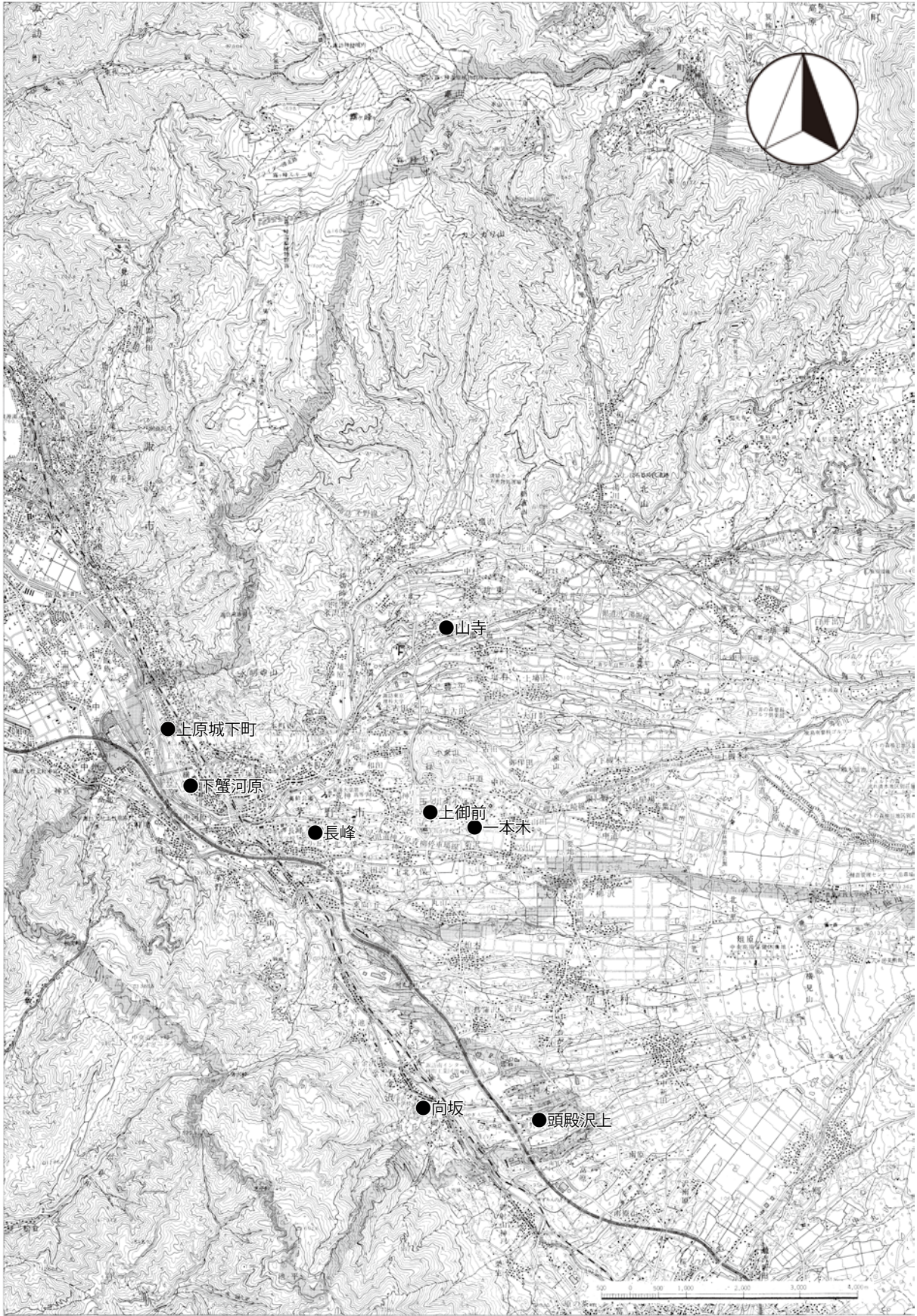
この中で平成26年度国宝重要文化財等保存整備費事業補助金の「市内遺跡発掘調査等事業」の対象事業は、試掘調査が5件、本調査が5件、補助対象事業費が1,303,326円であった。

本報告では、予算の執行を伴わない立会調査25件は割愛した。

第3節 調査の体制

発掘調査は茅野市教育委員会事務局 尖石縄文考古館および文化財課が実施した。組織は下記のとおりである。

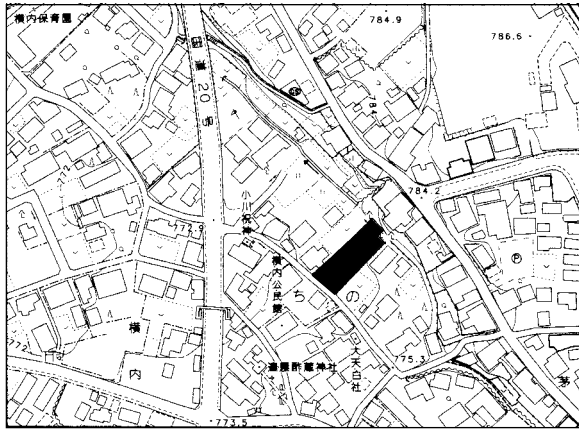
- ① 調査主体者 教育長 牛山英彦
- ② 事務局 生涯学習部長 木川亮一
- ③ 尖石縄文考古館
 - 守矢昌文（尖石縄文考古館長・文化財課長）
 - 小池岳史（考古館係長 平成26年4月1日から）
 - 功刀 司（尖石史跡整備担当） 小林深志（文化財係長）
 - 山科 哲 大月三千代 鶴飼幸雄 塩澤恭輔
- ④ 調査担当 小林深志 鶴飼幸雄 塩澤恭輔（発掘調査・整理作業・報告書担当）
- ⑤ 発掘調査参加者
 - 補助員 牛山矩子 酒井みさを 大勝弘子 武居八千代 立岩貴江子
 - 作業員 後藤信一



第1図 調査遺跡位置図 (1/100,000)

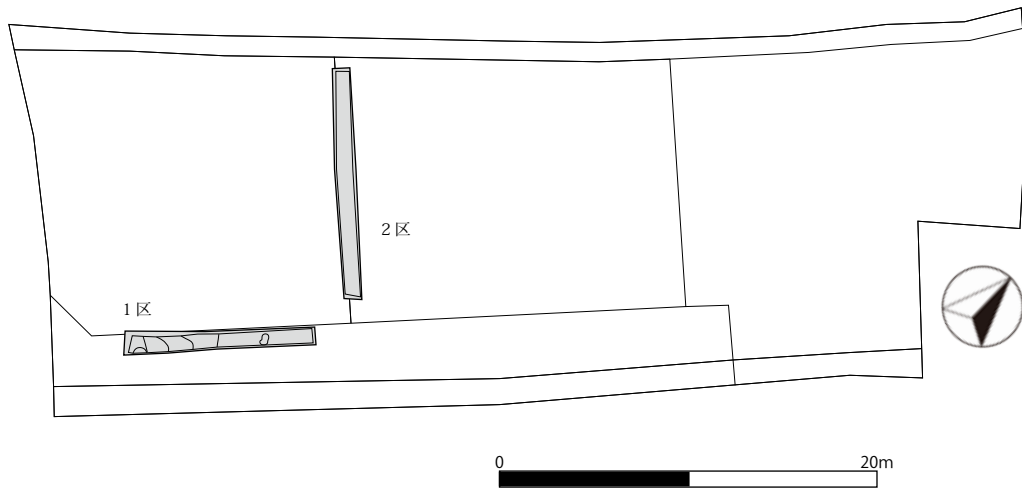
第2章 試掘調査

1 下蟹河原遺跡

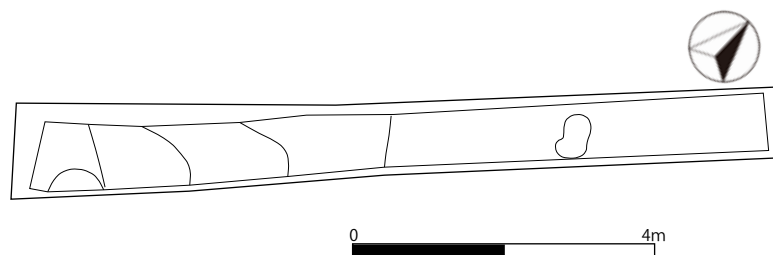


第2図 調査地点図 (1/5,000)

遺跡番号 112-9
所在地 茅野市ちの字下蟹河原 3316-1 他7筆
調査原因 宅地造成
調査期間 平成26年4月10日
調査面積 22.3㎡
遺構 多数
遺物 平安土師器7



第3図 下蟹河原試掘調査全体図 (1/400)



第4図 1区遺構分布図 (1/100)

遺跡の概要 JR茅野駅の西300mにあり、駅のある上川の沖積台地の西端で、比高差約10mの茅野断層の崖下の低地にある。標高は769mを測る。本遺跡内には達屋酢蔵神社や御社宮司社などの古社もあり、古くから開けたところで、人家が密集している。

本遺跡は、昭和6年に遺物の発見を知った矢島数由氏により発掘調査が行われ、住居址一括資料が発掘されたことによって広く知られるところとなった。この資料については、藤森栄一氏の報告に詳しいが、古墳時代初頭の一括資料として、位置づけられるもので、東海地方との関わりがうかがわれる資料として、編年学的にも重要

な資料となった。

近年、個人住宅や集合住宅の建設に伴い、小規模な発掘調査や試掘調査が行われ、弥生時代から古代にかけて長期間継続された遺跡であることが確認されている。

調査の概要 遺跡範囲の南東端に位置する場所に、宅地造成工事が計画された。今回の調査地点の西側隣接地では、平成20年度に集合住宅を建設する際に試掘調査を行い、計画された基礎工事の掘削深度（現況地盤以下50～55cm）まで掘り下げたところ、地山である暗褐色砂質土層面に17個以上の落ち込みを確認し、多くの遺物が出土している。

今回の工事では、L字型擁壁と側溝設置のため、幅約1m、掘削深度（現況地盤より40～60cm）まで掘り下げる工事が計画された。そのため、隣接地である当地でも遺構面に達すると考え、まず試掘調査を行い、事業者と協議することとした。調査は、掘削の影響を受ける場所2個所にトレンチを設定し、工事予定掘削深度まで掘り下げを行った。その結果、一部にカマドの粘土らしい場所がみられるものの、多数の遺構が重複しており詳細は不明であった。また、これ以上の掘削がなく、出土した土器も小さな破片がわずかなこともあり、明確には分からなかった。調査結果を見る限り、事業により遺構が破壊される可能性は低いと考えられた。そのため、本調査に移行する必要はないと判断し、調査を終了とした。



図版1 調査前現況（北から）



図版2 調査風景（東から）

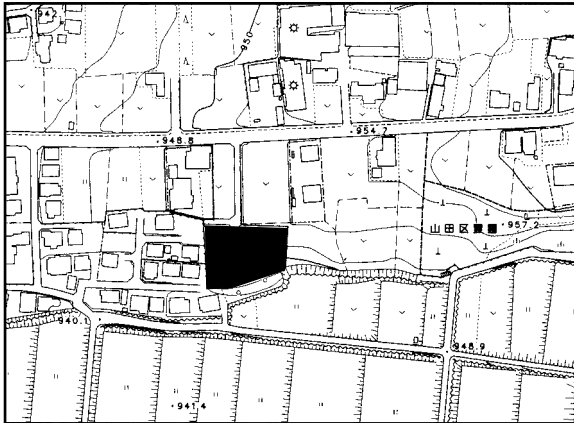


図版3 1区完掘状況（南から）



図版4 2区完掘状況（東から）

2 一本木遺跡



第5図 調査地点図(1/5,000)

遺跡番号	163-10
所在地	茅野市玉川川久保日向 8444-1 他
調査原因	宅地造成
調査期間	平成 26 年 4 月 16 日～ 17 日
調査面積	175.9㎡
遺構	焼土址 1、土坑 2
遺物	縄文土器・黒曜石

遺跡の概要 八ヶ岳の西麓、東西に伸びる台地上に所在する。地籍は玉川地区山田である。台地平坦面の頂部付近から南側斜面に縄文時代中期末葉の土器や石器が散布し、約 25,000㎡が遺跡に登録されている。遺跡内の標高は 960～946 mを測る。

平成に入り、本遺跡とその周辺は急速に宅地化したが、調査事例が極めて少ない。平成 10 年に遺跡西端の個人住宅建築工事に伴う工事立会で、時期不明の土坑が発見された以外に、調査等による遺跡の情報は得られていない。そのために、遺跡の広がり・時期・性格などは不明なままである。また、平成 24 年には今回の北側に近接する地点で個人住宅建築工事に伴う調査が行われているが、遺構や遺物は検出されていない。



図版 5 調査前現況(北西から)



図版 6 調査風景(東から)



図版 7 試掘調査全景(北東から)



図版 8 1区焼土址(東から)



図版9 2区土坑検出状態(東から)

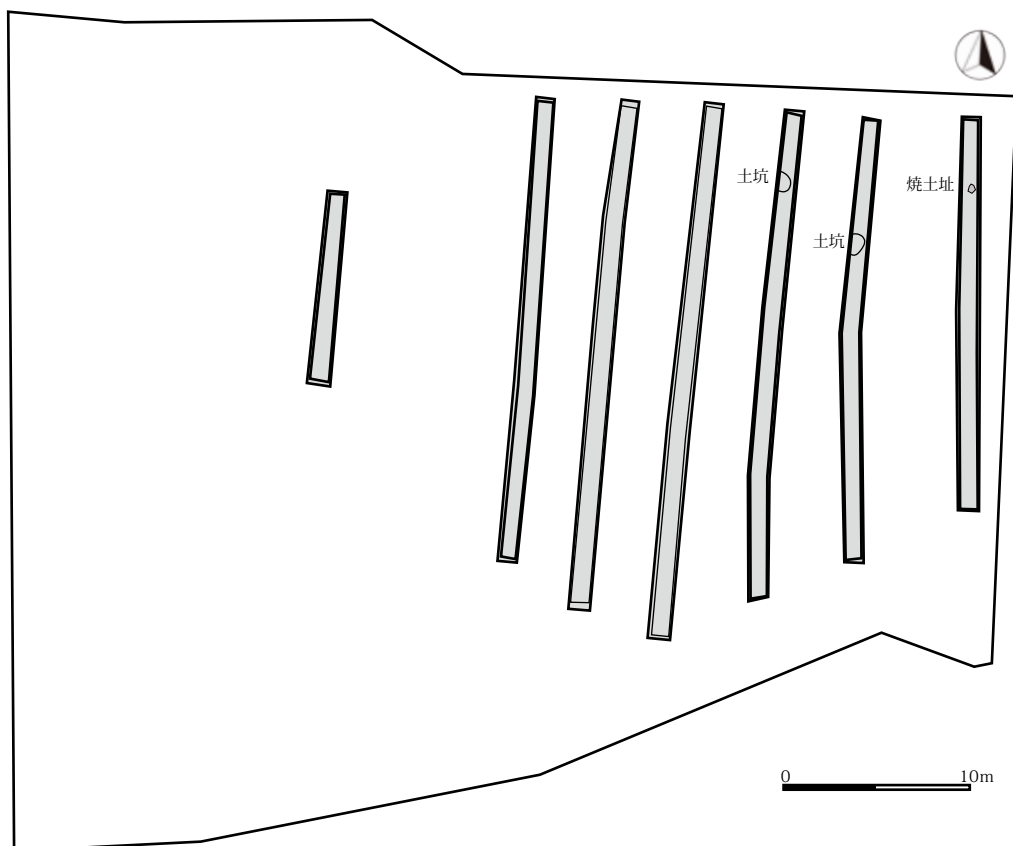


図版10 3区土坑検出状態(東から)

調査の概要 遺跡の中央付近緩やかな斜面に2,791㎡の範囲に宅地造成工事が計画された。範囲も広く台地頂部約450㎡を切り土する計画であったため、予め範囲確認の試掘調査を行うことで事業主の了解を得た。

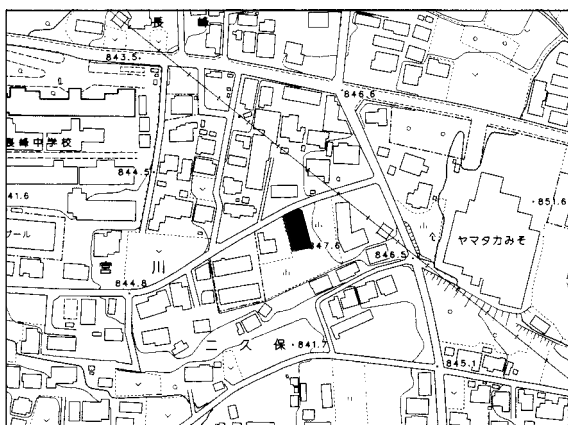
切り土によって壊される範囲に7本のトレンチを設定し、計175.9㎡を試掘調査した結果、土坑2基、焼土址1箇所を確認した。また、現状地形に沿って地山が続くことも確認できた。ただし、耕作土層が20～30cm程しかなく、耕作による攪乱や小型重機の爪痕が残るなど既に大きな改変を受けていると思われる。事業主との協議の結果、委託契約を締結し、本調査に切り替えた。

本遺跡の委託事業に伴う発掘調査報告書は、平成26年度に既に刊行している。



第6図 一本木遺跡試掘調査全体図(1/400)

3 長峰遺跡

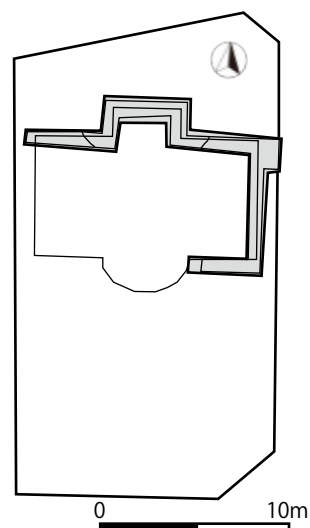


第7図 調査地点図 (1/5,000)

遺跡番号 145-19
 所在地 茅野市宮川 11109-1
 調査原因 個人住宅
 調査期間 平成 26 年 5 月 25 日
 調査面積 27m²
 遺 構 住居址 1
 遺 物 縄文土器 13・黒曜石 3

調査の概要 遺跡のほぼ中央に、建売の個人住宅建設工事が計画された。平成 16 年 7 月に当該事業地の東へ約 50 m の地点で個人住宅建築工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代中期後葉期(曾利Ⅲ～Ⅳ式期)の竪穴住居址 1 軒と当該期から後期初頭期とみられる多数の土坑が検出されているほか、周囲から縄文時代中期の遺構・遺物が多数検出されている。これらの調査例から当該事業地に遺構が存するものとみて、事業者の協力の下、予定掘削深度までの試掘調査を行った。

試掘調査の結果、住居址 1 軒を検出したほか、土器片 13 点、黒曜石 3 点が出土した。住居址の時期は、覆土から出土した土器片も小さく、わずかであったため、特定には至らなかった。また、現況の地形は西へ緩やかに傾斜しているが、計画地内東側では黒色の耕作土の上に多量のローム塊を含んだ堆積がみられたことから、畑になる際、あるいは周囲を削平した際の盛り土と思われる。今回の工事では、遺構検出面以下に掘削が及ばないため、記録保存して保護措置とした。



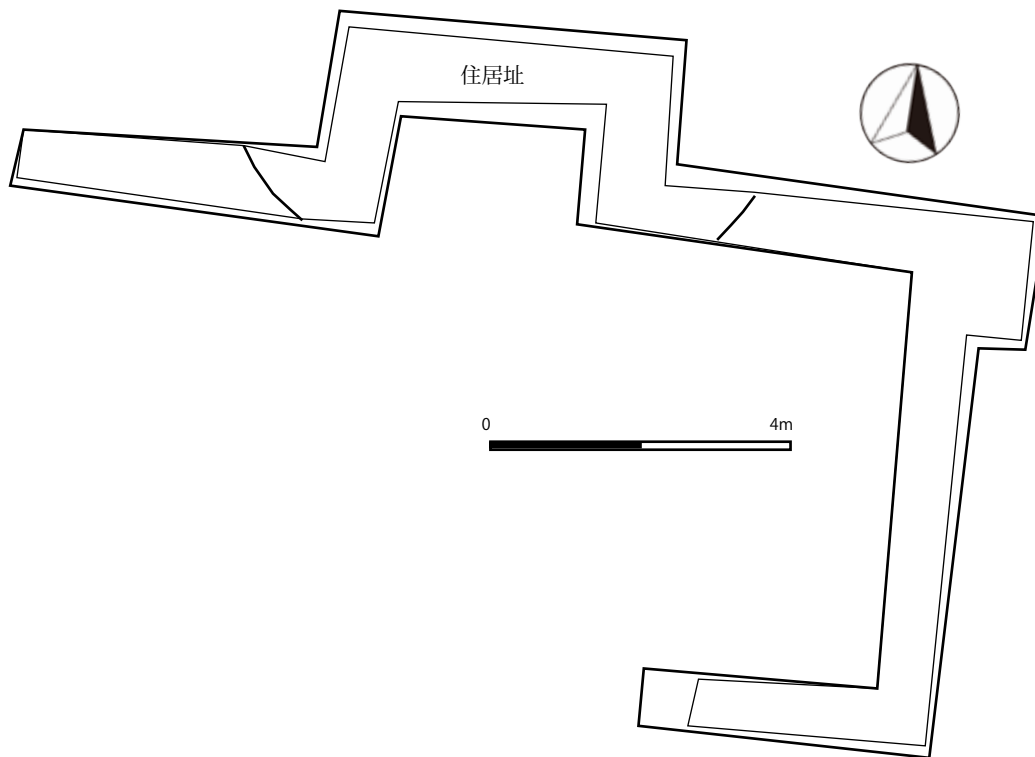
第8図 調査位置図 (1/400)



図版 11 住居址検出状態 (西から)

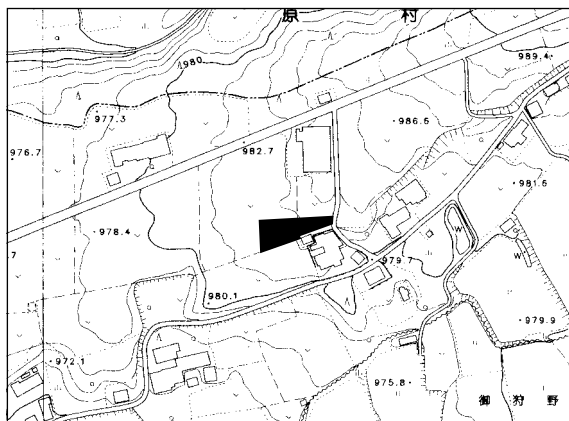


図版 12 住居址検出状態 (東から)



第9図 長峰遺跡試掘調査全体図 (1/100)

4 頭殿沢上遺跡



第10図 調査地点図 (1/5,000)

遺跡番号 197-5
 所在地 茅野市金沢御狩野 5568-6 他
 調査原因 工場増築
 調査期間 平成 26 年 5 月 26 日
 調査面積 67m²
 遺 構 土坑 4
 遺 物 縄文土器 13・打製石斧 1・黒曜石 1

遺跡の概要 当遺跡は八ヶ岳西麓の台地上にあり、標高は 982 m 程である。中央自動車道建設の際に調査された頭殿沢遺跡からは、直線距離で約 400m 東に位置する。縄文時代中期土器の採集により登録された遺跡であるが、長い間、実体が不明であった。

平成 16 年 12 月、下水道敷設工事の仮設道路掘削に伴う発掘調査で、平安時代と考えられる住居址が地表下 30 cm から 1 軒検出され、ようやく遺跡の実体が見え始めてきた。平成 17 年の植林工事に伴う工事立会では、掘削深が 20cm 前後と浅かったために、遺構等の確認はされていない。また、平成 25 年には本計画地西にソーラーパネル設置工事に伴い試掘調査を行っているが、この場所でも何も検出されなかった。

遺跡の東端の、現在畑として利用されている場所に、隣接する工場の増築工事が計画された。平成 6 年に行った当該工場建設の際の立会い調査では、遺構・遺物は検出されていない。

調査の概要 過去の調査からは遺跡として指定されてはいるものの、その性格や時期が不明確であった。そこで、

範囲や内容を確認するため、事業主の了解・協力の下、基礎工事による掘削が予定される箇所を遺構検出面まで掘り下げる試掘調査を行った。

重機により、徐々に掘り下げを行っていったが、調査区内は長芋の栽培を行っていた畑で、トレンチャーの溝が規則的にみられ、遺構の検出は難しいように感じられた。調査範囲内を精査した結果、小さな土坑4基を検出したほか、遺構の内外を含め、縄文土器11点、打製石斧1点、黒曜石1点が出土した。

遺構 土坑4基を検出した。

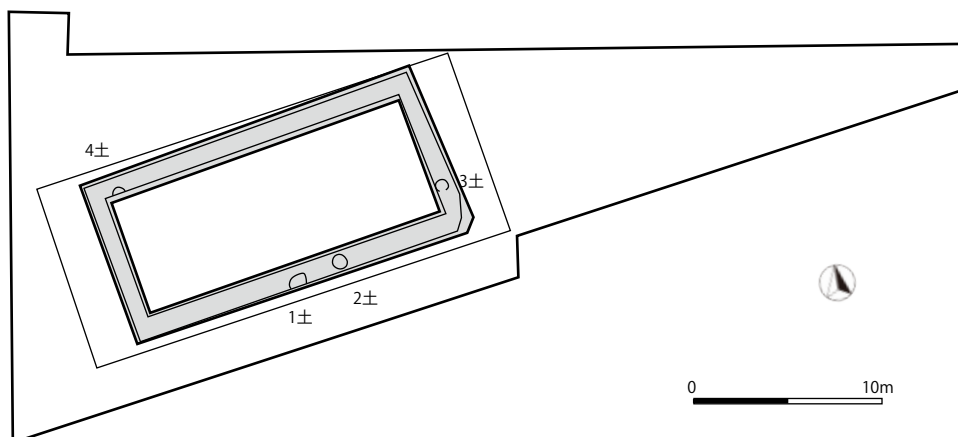
1号土坑 調査区に限られており、南側は不明であるが、径1mほどの円形を呈すると考えられる。トレンチの壁面の観察からは、深さが30cmほどあったと考えられる。覆土内からは、中期初頭の縄文土器が出土しており、該期の遺構と考えられる。また、打製石斧の出土もあった。

2号土坑 径80～85cmの円形を呈する。周囲をローム面まで掘り下げてしまったため、深さは15cmほどであったが、1号土坑と同様30cmほどの深さがあったと考えられる。覆土内から縄文土器片が1点出土している。

3号土坑 南側の壁面を検出できなかったが、径80cmほどの円形を呈するものと考えられる。覆土はほとんど残っていないが、30cmほどの深さがあったと考えられる。

4号土坑 調査区に限られており、南側は不明であるが、径60cmほどの円形を呈すると考えられる。トレンチの壁面の観察からは、深さが30cmほどあったと考えられる。覆土内からは、縄文土器が1点出土している。小片であり時期は不明であるが、1号土坑出土の縄文土器と同じような雲母を含む胎土であることから、同時期のものと考えられる。

覆土はいずれも黒色から黒褐色を呈している。遺物の出土していない遺構もあるが、周辺で出土した土器が中期初頭のものしかないことから、該期の遺構と考えてよいものと思われる。



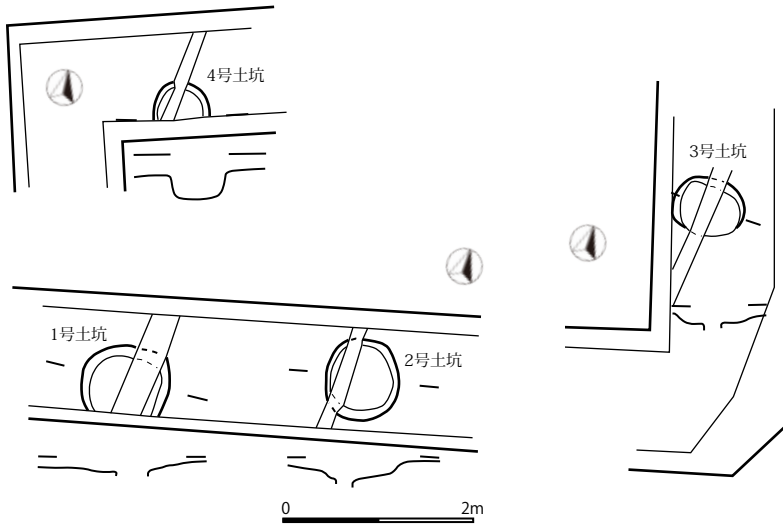
第11図 調査位置図(1/400)



図版13 調査前現況(南西から)



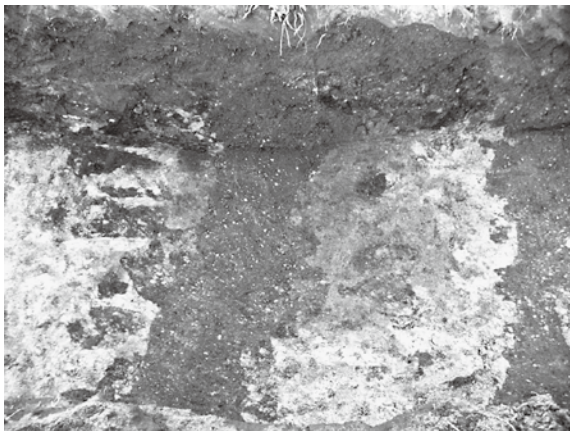
図版14 調査風景(東から)



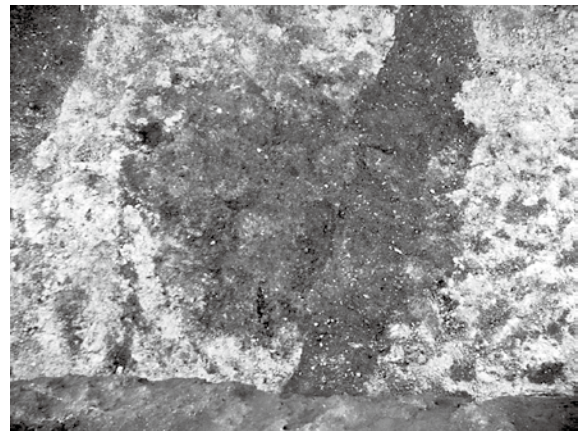
第12図 1～4号土坑 (1/80)

1号土坑
 黒色土 10YR1.7/1 硬く良く締まっている。
 1mm以下の石粒を7%以下含む。1mm以下のローム粒子を10%含む。粘性は弱い。

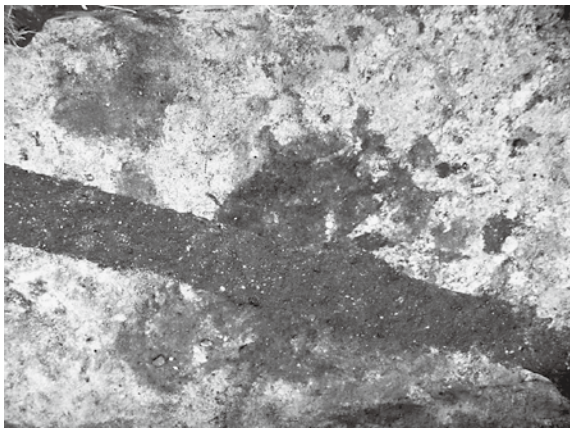
2号土坑
 黒褐色土 10YR3/2 締まりは弱い。石粒の混じりは少ない。1mm以下のローム粒子を3%含む。粘性あり。



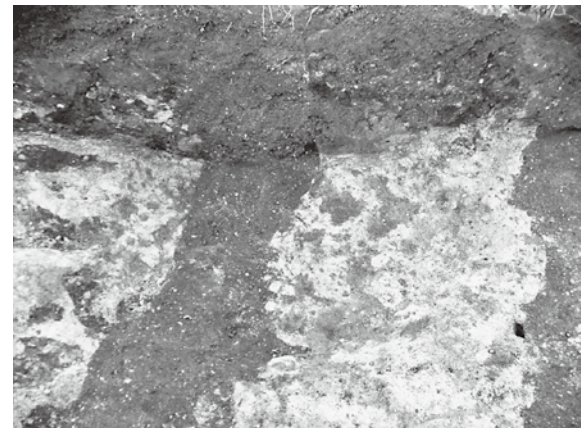
図版15 1号土坑検出状態 (北西から)



図版16 2号土坑検出状況 (北西から)



図版17 3号土坑検出状況 (北西から)



図版18 4号土坑検出状況 (北西から)



図版 19 1号土坑完掘状態(北西から)



図版 20 2号土坑完掘状態(北西から)



図版 21 3号土坑完掘状態(北西から)



図版 22 4号土坑完掘状態(北西から)

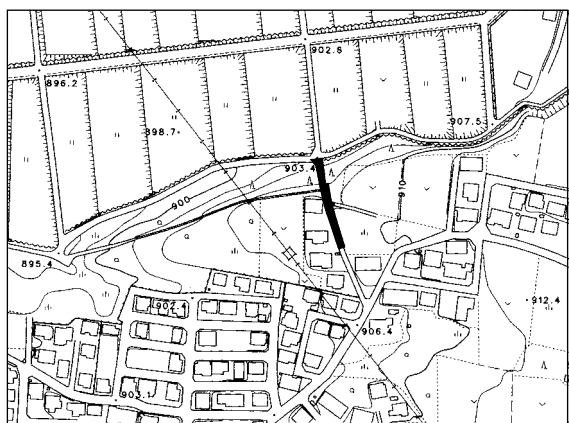


図版 23 完掘全景(北から)



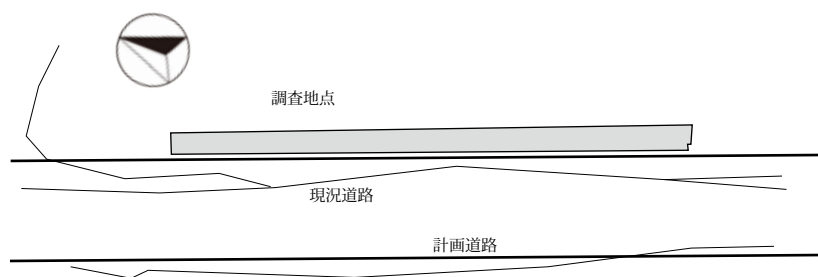
図版 24 完掘全景(北東から)

5 上御前遺跡



第13図 調査地点図(1/5,000)

遺跡番号 161-6
 所在地 茅野市玉川上ノ宮上 3121-1 番地
 調査原因 道路改良工事
 調査期間 平成26年11月4日
 調査面積 16.56㎡
 遺構 なし
 遺物 なし



第14図 調査地点図(1/300)

遺跡の概要 八ヶ岳西麓の東西に延びる舌状台地に所在する。昭和45年から47年に岡谷南高校歴史クラブ考古班による3次の発掘調査が行われ、縄文時代前期末葉から中期初頭の竪穴住居址、早期後半の居住施設とも考えられる「小竪穴」、中世の地下式坑などとともに、旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代早期・前期・中期・晩期の各種遺物が検出された。この調査結果から、断続的ながら長期にわたって生活の痕跡が認められる点が特徴とされている。また、同一地点から異なる時期の縄文時代の遺物が出土した要因として、舌状台地先端の南裾にある豊富な湧水との関わりが考えられている。平成13年には宅地造成工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代前期末葉の竪穴住居址1軒、前期末葉とみられる土坑1基、焼土址1基が検出された。

調査の概要 遺跡やや東寄りの市道において、道路の舗装工事とブロック積み工事が計画された。周囲の発掘調査例も少なく、工事によって大きく削られてしまうことから、事前に試掘調査を行い、その結果を元に市担当者との工事について協議することとした。

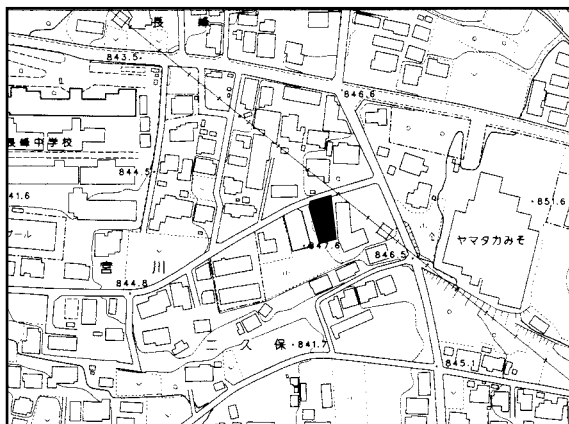
本工事ではさらに約20cm掘り下げられるが、今回の工事が道路工事ということや、地域住民がよく利用する道路であることから、全面を通行止めにしての調査ができず、隣地にトレンチを入れることで地下の様子を把握することとした。道路脇の個人所有の土地を所有者の許可を得た上でトレンチを設定し掘り進めた結果、現況から50cm程下で黄褐色の地山を確認した。その面で遺構や遺物の有無について精査したが遺構・遺物共に検出は無かった。今回の調査結果から、この周囲には遺構のある可能性は少ないと判断し、工事に際しての立会へと切り替えた。



図版25 トレンチ掘削状況(北から)

第3章 本調査

1 長峰遺跡



第15図 調査地点図 (1/5,000)

調査の概要 遺跡のほぼ中央で、個人住宅の建築工事が計画された。26年の4月に隣接地で住宅建設が行われ、試掘調査を行ったところ、耕作土の上に盛土があり、掘削面まで掘り下げて住居址を検出したものの、これ以下に掘削が及ばないことから、住居址の輪郭を記録保存し終了としている。

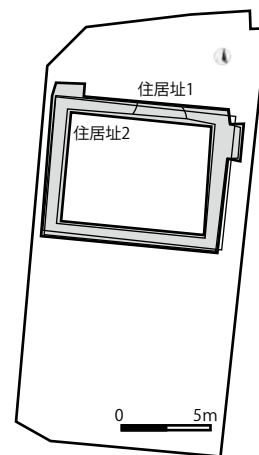
今回も耕作土の上に盛土があると考えられ、掘削が遺構にかからないのではないかと考え、立会調査とした。

事業者の協力の下、重機により耕作土以下を徐々に掘り下げていった結果、住居址2軒を検出した。そこで、事業者と協議のうえ、発掘調査に切り替え、計画している掘削面までを作業員を導入して掘り下げていった。

住居址は、重複しており、トレンチ壁面の土層観察や平面の観察から、東側の住居址1が古く、西側の住居址2が新しいことが確認されている。ただ、住居址2は、西側トレンチが遺構確認面に達していないため、遺物包含層を平面プランととらえた可能性もある。東側の住居址1は、西側の住居址2に切られており、規模は不明である。また、西側の住居址2は、計画する掘削面が耕作土内で止まっているため確認できず、同じく規模は不明である。2軒の住居址の覆土内からは、縄文時代中期後半の土器・石器・黒曜石が合わせて整理箱1箱分出土した。

発掘調査は、掘削深度までを掘り下げ終了とした。掘削面以下に遺構や遺物は保存されている。

遺跡番号 145-20
所在地 茅野市宮川 11109-1・2
調査原因 個人住宅
調査期間 平成26年6月11日～12日
調査面積 32m²
遺構 縄文住居址2
遺物 縄文土器・石器・黒曜石整理箱1



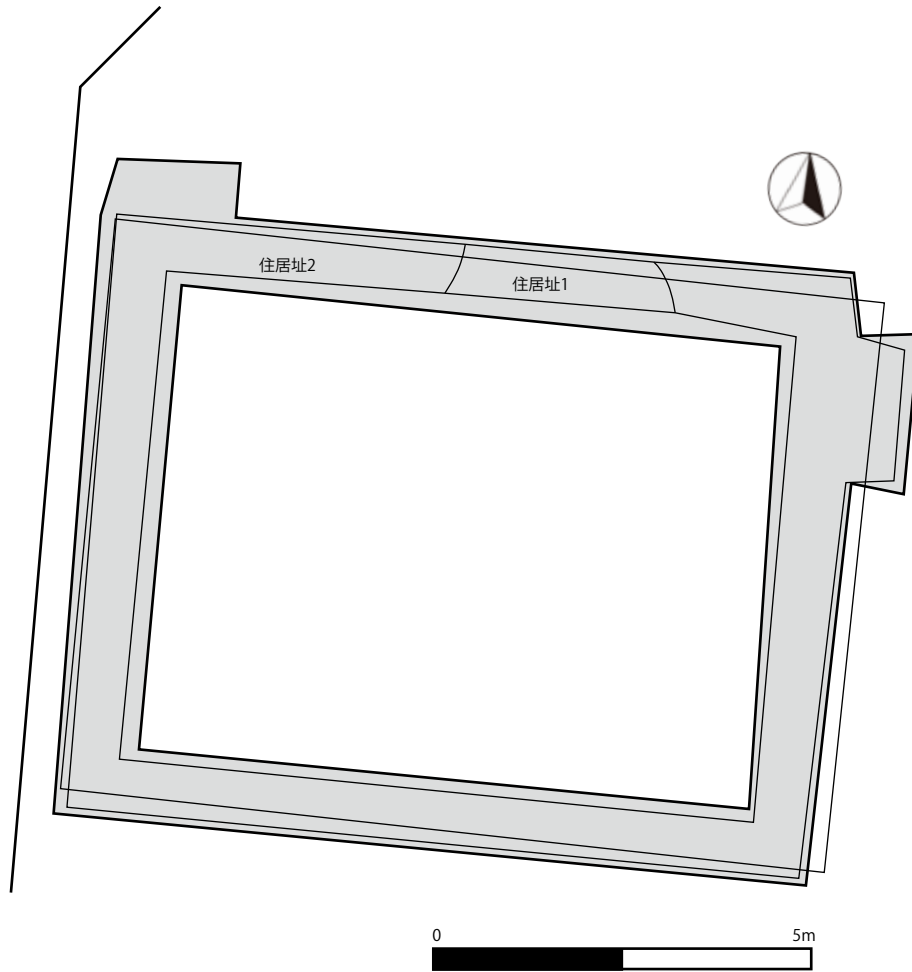
第16図 調査地点図 (1/400)



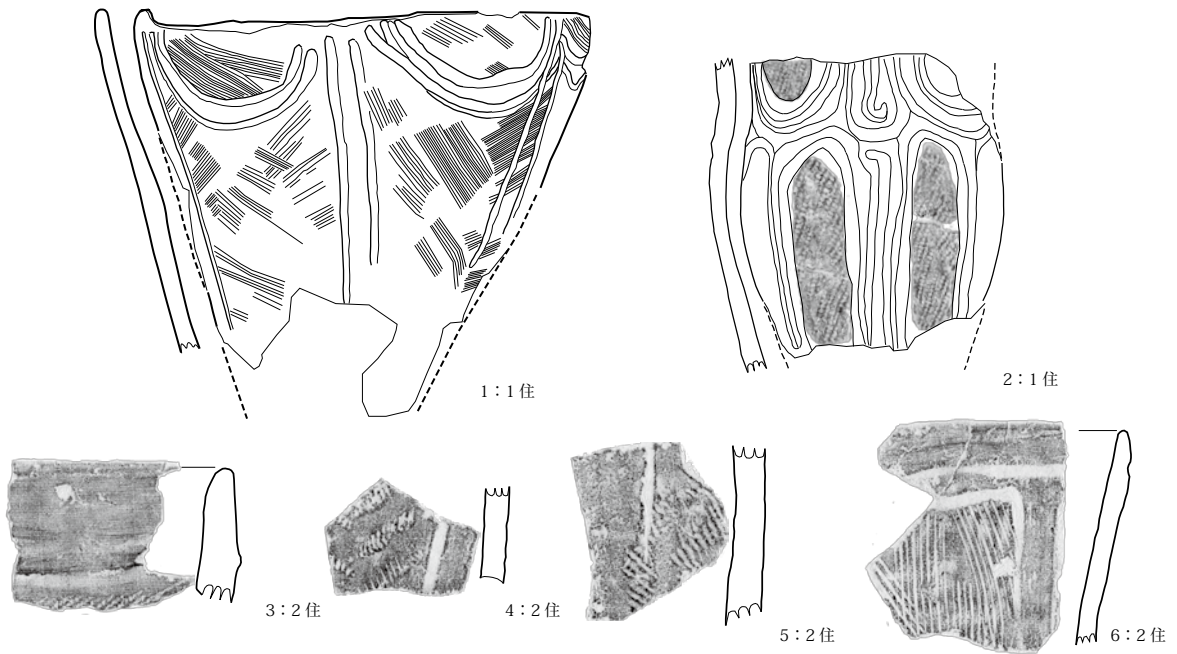
図版26 調査区全景 (北西から)



図版27 遺構検出状態 (東から)

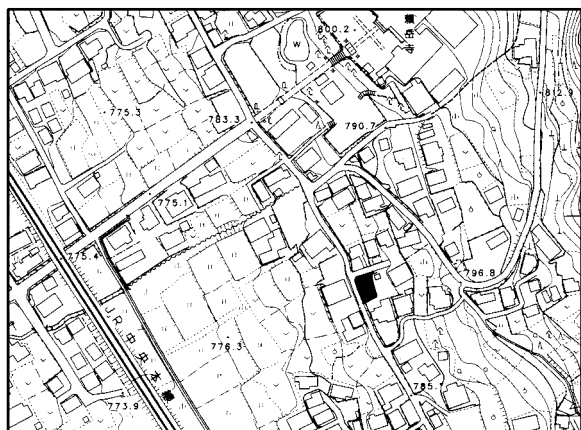


第17図 遺構分布図 (1/100)



第18図 出土遺物 (1・2は1/4、3～6は1/3)

2 上原城下町遺跡



第 19 図 調査地点図 (1/5,000)

遺跡番号	224-173
所在地	茅野市ちの字山下山ノ神 1766-3
調査原因	個人住宅
調査期間	平成 26 年 9 月 5 日
調査面積	18㎡
遺構	なし
遺物	なし

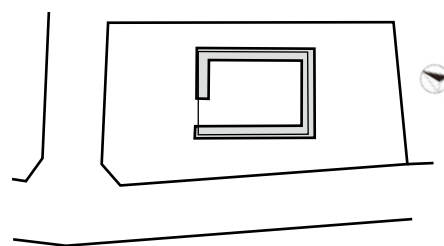
遺跡の概要 市域の北端に位置する永明寺山 (1,119 m) の一支脈金比羅山 (978 m) には、県史跡「諏訪氏城跡上原城」が築かれる。その直下、西向きに緩やかな斜面一帯に本遺跡は所在する。地籍はちの地区上原である。遺跡内の標高は 768 ~ 805 m を測る。

城下町のなごりを留める小字や地割りから、上原集落のほぼ全域となる約 535,000㎡が遺跡に登録されている。平成 2 年の試掘調査 (詳細分布調査) 以降、各種の開発工事に伴う発掘調査等が 160 以上の地点で行われた結果、中世城下町に関わる遺構のほか、弥生時代中期後半から平安時代の竪穴住居址、弥生時代から古墳時代の墓 (周溝墓・古墳) などが確認された。また、遺構は発見されていないものの、縄文土器の出土も報告されている。

調査の概要 調査地点は遺跡の北側にあたり、国道 20 号線や JR 中央東線と並行して永明寺山の麓を南北に走る旧道沿いにあたる。道路より山側に面しており、石垣により道より一段高くなっている。

基礎工事は周囲が布掘りで、掘削深度は 45cm となっている。しかし、表層地盤改良により、建物の北西部分は 2.3 m の深さまで掘削する計画であった。

これまで周辺の個人住宅の建築の際の立会では遺構や遺物の検出はなかったが、掘削深度が深く、遺跡に影響を及ぼす可能性があったため、基礎工事に先立ち、事業者の許可を得て、事前に確認調査



第 20 図 調査位置図 (1/500)

を行うこととした。

調査は重機により、外周の基礎部分を掘削深度まで慎重に掘り下げていった。

調査地点は、かつて水田として利用されていたものを、周囲の宅地化に伴って盛土がなされているところで、表土層は永明寺山を形成する花崗閃緑岩が 5mm ほどの砂状となったものが混じる。2 層目は粒子が粗く粘性に乏しい暗褐色土で、3 層目に水田の耕土である黒色土がある。水分を多く含み、暗青灰色のヘドロ化した土層で、暗渠として埋められた板材やヨシが入っている。

最も深い掘削となる建物北西部は、水田の耕土の下に赤褐色の床土が 10cm ほどあり、その下は明青灰色の砂層となる。このため、これ以上の掘り下げを行っても遺構の検出はないと考えられたため、計画深度には達しないものの調査を終了し、調査範囲の図化や写真撮影を行った後、重機による埋め戻しを行い調査を終了した。

今回の調査による遺構の検出、遺物の出土はなかった。

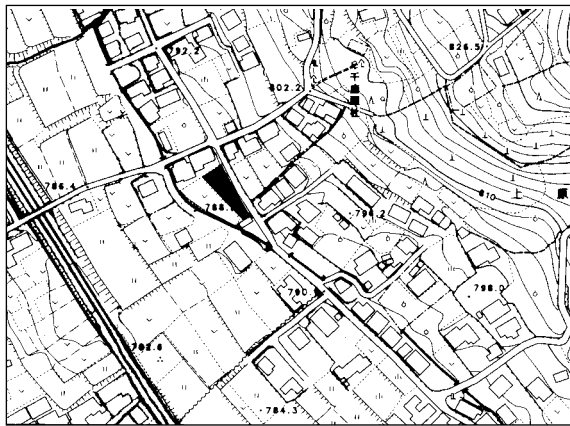


図版 28 調査風景 (北から)



図版 29 調査区全景 (北東から)

3 上原城下町遺跡

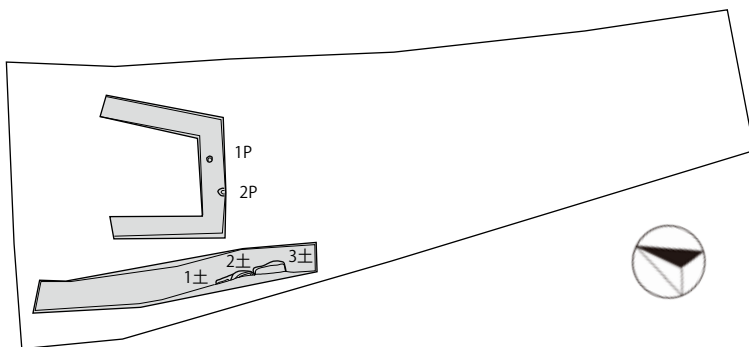


第 21 図 調査地点図 (1/5,000)

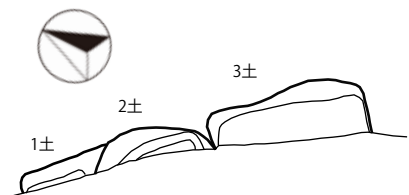
遺跡番号 224-177
 所在地 茅野市ちの 1136
 調査原因 個人住宅
 調査期間 平成 26 年 10 月 21 日
 調査面積 49m²
 遺 構 ピット 2、土坑 3
 遺 物 中世土器 5、時期不明土器 11、打製石
 斧 1

調査の概要 調査地点は遺跡の北東にあたり、永明寺山からの南東の傾斜に位置する。計画は個人住宅建築工事とそれに伴う計画地内谷側に擁壁造成工事であった。住宅部分については布掘りで、幅約 60cm、掘削深度は約 55cm、擁壁工事は現況から 2.65m、段下から 85cm、掘削幅は約 1.85m の予定であった。掘削が深くまで行われることから、工事に先立ち、事業者の許可を得て、事前に確認調査を行うこととした。

計画面まで掘り下げ、精査した結果、ピットが 2 か所、不均一な土坑のような遺構が 3 か所検出された。遺物が少なく時期・用途等は判断できなかった。検出された遺構は写真と図面によって記録し、調査を終了した。



第 22 図 調査位置図 (1/400)



第 23 図 検出された遺構 (1/80)



図版 30 西側トレンチ検出遺構 (南から)



図版 31 南側トレンチ検出遺構 (東から)

4 上原城下町遺跡

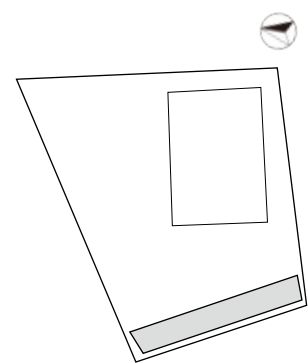


第 24 図 調査地点図 (1/5,000)

遺跡番号 224-176
 所在地 茅野市ちのちの字下山ノ神 1761-5、
 1761-3 の一部
 調査原因 倉庫新築工事
 調査期間 平成 26 年 10 月 22 日
 調査面積 14.25㎡
 遺 構 なし
 遺 物 なし

調査概要 調査地点は遺跡の北端にあたり、頼岳寺より南東のやや急な斜面に位置し道路よりも高い地形である。計画地の谷側に擁壁を入れることとなり、深さが地表面から 3.7m、道路面から 70cm掘り下げる計画が提出された。擁壁で壊される部分は広く、遺構が残っていた場合壊される可能性が生じたため、試掘調査を行うこととした。

試掘調査では擁壁を入れる部分を計画の高さまで掘り下げていったところ、道路面と同じ高さで砂質の地山が確認でき、2m 近い大きな礫もいくつも検出された。周辺住民の話では、昔は川が流れていたという。掘削面を精査したが遺構は確認できず、遺物も出土しないことから、工事に影響はないと判断し調査を終了した。



第 25 図 調査位置図 (1/400)

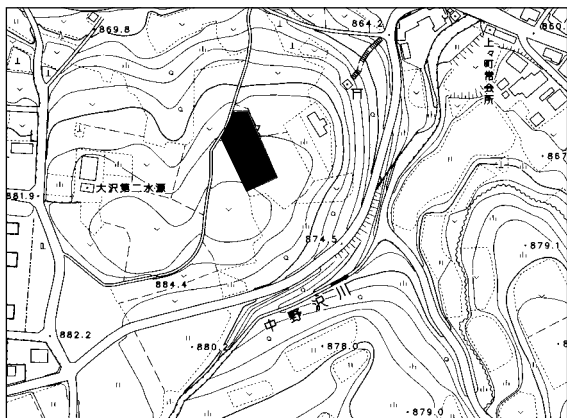


図版 32 調査区全景 (北から)



図版 33 掘削状況 (南から)

5 向坂遺跡



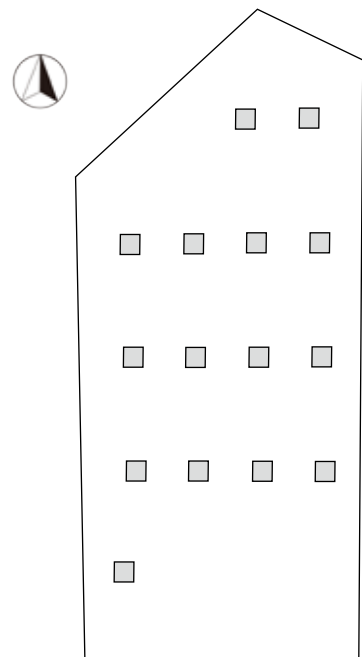
第 26 図 調査地点図 (1/5,000)

遺跡番号	187-1
所在地	茅野市金沢字向坂 1543 番 1
調査原因	太陽光発電
調査期間	平成 26 年 10 月 30 日
調査面積	33.75㎡
遺構	なし
遺物	縄文土器 8 点、石器 1 点、中世土器 1 点

調査の概要 遺跡内ほぼ中央の休耕地に、太陽光パネル設置工事が計画された。遺跡内の過去の調査例はないが、近くの芥沢遺跡からは縄文時代早期から中期にかけての集落跡が見つかっている。そのため、遺跡の実態把握のためにも、今回施主、事業者にご協力いただき、事前の試掘調査を行った。

パネル設置場所を外しながら 1.5m 四方のトレンチを計 15 カ所に入れて調査を行った。南側の高い場所では耕作土下 16cm 程の所で黄褐色の地山が検出され、最も深く掘った北側でも 50cm 程であった。精査したが、耕作をしていた時の攪乱のみの検出に留まり、遺構は検出されなかった。攪乱は木の根によるものや、長いものを植える際の溝であると思われる。また、地権者の方からは以前は桑畑だったとの話もあるが、根による攪乱は土地内の段差付近のみであり、既に土地内が改変されている可能性もある。南側での地山までの深さが浅かったのもそれによるものとも考えられる。

遺物も黒曜石を中心に若干出土しているが、いずれも耕作土内や攪乱の中からの出土であり、周辺から流れてきた、あるいは土と一緒に運ばれてきた



第 27 図 調査位置図 (1/800)

ものと思われる。主な遺物は黒曜石や石鏃、縄文前期初頭の土器片である。

調査から当該敷地内に遺構はないものと判断し、埋め戻し後調査を終了とした。



図版 34 調査前現況 (北東から)



図版 35 調査区全景 (北から)

報告書抄録

ふりがな	しないいせききゅう					
書名	市内遺跡9					
副書名	平成26年度 埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	小林深志・塩澤恭輔					
編集機関	茅野市教育委員会					
所在地	〒391-8501 長野県茅野市塚原二丁目6番地1号 Tel.0266-72-2101					
発行年月日	西暦2015年9月30日					
ふりがな 遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	発見遺構
		遺跡番号				発見遺物
しもがにがわら 下蟹河原	茅野市市の 字下蟹河原3316-1他 7筆	20214	平成26年4月10日	22.3	宅地造成	多数
		112				平安土師器7
いっばんぎ 一本木	茅野市玉川 字川久保日向 8444-1他4筆	20214	平成26年4月16日 ～ 4月17日	175.9	宅地造成	焼土址1、土坑2
		163				縄文土器・黒曜石
ながみね 長峰	茅野市宮川 11109-1	20214	平成26年5月25日	27	個人住宅	縄文住居1
		145				縄文土器13、黒曜石3
とうどのざわうえ 頭殿沢上	茅野市金沢 御狩野5568-6、 -4、-5、-1の一部	20214	平成26年5月26日	67	工場増築	土坑4
		197				縄文土器13、打製石斧1、黒曜石1
かみごげん 上御前	茅野市玉川 上ノ宮上3121-1番地	20214	平成26年11月4日	16.56	道路改良工事	なし
		161				なし
ながみね 長峰	茅野市宮川 11109-1の一部 11109-2の一部	20214	平成26年6月11日 ～ 6月12日	32	個人住宅	縄文住居址2
		145				縄文土器・石器・黒曜石
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市市の 字山下山ノ神1766-3	20214	平成26年9月5日	18	個人住宅	なし
		224				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市市の1136	20214	平成26年10月21日	49	個人住宅	ピット2、土坑3
		224				中世土器5、時期不明土器11、打製石斧1
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市市の字山ノ神 1761-5、1761-3の一部	20214	平成26年10月22日	14.25	倉庫新築	なし
		224				なし
むこうざか 向坂	茅野市金沢 字向坂1543番1	20214	平成26年10月30日	33.75	太陽光パネル設置	なし
		187				縄文土器8、石器1、中世土器1

市内遺跡 9

—平成 26 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 27 年 9 月 25 日 印刷

平成 27 年 9 月 30 日 発行

編集 茅野市教育委員会

発行 長野県茅野市塚原二丁目 6 番 1 号 (0266) 72 - 2101(代)

印刷 永明社印刷所

長野県茅野市塚原二丁目 12 番地 30 号
